



北海道医歌人会詠草

白内障

やや若きは通院で済み年寄り入院2回白内障のオペ
手術受け片目隠しの独眼竜年頃見ればみな爺とババ
洛北の大河内山荘想い出づ女左膳が病棟に行く
独眼竜政宗を知る看護師ら丹下左膳知らず時代の落差
銭湯の映画ポスター大河内丹下左膳を知るは少なき

札幌 古屋 統

暑き夏

記録的暑さの続くこの夏は病み後の身にはいたく堪へり
俄かなる雷雨通りて涼しかり真夏日の午後一息つけり
来道を促す便りのペン止まる北の暑さの今日も続きて
初めてのジュニアゴルフの開催に美唄コースは湧き立つ如し
プロの打つ模範シヨットのドライバー子らの歓声コースを揺がす

美唄 吉村 誠治

クサノワウ

花涼し林の口のクサノワウ夜明けの雨の滴を宿す
慰霊簿の名に想起せり暑き日に見舞う夫に告げける謂ひを
去る夏のガーデンカフェに我と妻を招き給ひし人の訃報が
花柄の手提げ袋を持つ女性定めるところバス待つ今朝も
あれこれと癌病名もあっさりと同期の会の近況報告

札幌 浜島 泉

心の淵ふち

あの可愛いお婆ばばが家では罵詈雑言団欒けちらす暴君だとは
うっ屈の心の所作か痴呆だか孤独の老いの救われぬ業
不条理を呑みこみ人生生きた大家族に当たった嵐の日々あり
がん病みて譫妄の妻の雑言が耐えがたかりきと友の語れる
人は皆心に悪魔を飼いおるや鎖はざるる時やおそろし

釧路 兎玉 昌彦

コオロギ

何処から吾が家の三階に飛び来しか街の真中でコオロギが鳴く
コオロギが吾が家のベランダに住みつきて近づけば鳴き心やすらぐ
コオロギも猫も吾が家の一員と思つてみたし老いの二人は
親子孫揃つて函館の街を歩む老後の倅せを感謝しながら
平穏な中にも避け得ぬこともあり宿命と云うは如何にきびしき

旭川 稲積 文子

落葉

落葉が転がって行くその音の軽いことよ冷たいことよ
われすでに傘寿過ぎても落葉に心を寄せる気持などない
一本の樹から無数の葉が散って色それぞれにその多様(葉)性
葉を落とし凜として立つ樹を見上げ逝つた人らに想い巡らす
台風がまだ枯れもしない葉を散らし雨にまみれて道に張り付く

江別 三宅 浩次